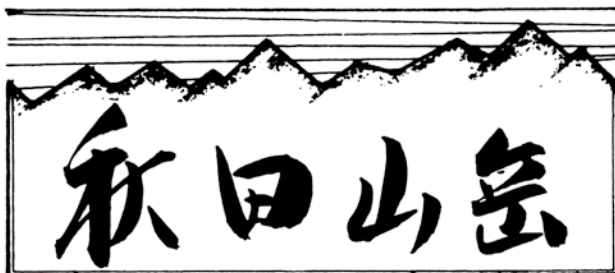


2021



令和3年6月 発行

No. 119

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行 秋田支部

編集 鈴木裕子

令和3年度通常総会（書面表決）

令和二年度 第三回役員会を開催

令和三年三月十六日午後一時から、令和二年度第三回役員会を秋田市泉コミユニティセンターで開催。

進行は鎌田副支部長。初めに、鈴木支部長から日頃の支部運営に感謝する等の挨拶があった。

続いて、事業の執行状況 ①古道調査の打ち合わせ ②支部連絡会議（オンライン）③「会報」百十八号の発行等の報告の後、秋田支部令和三年度通常総会に提案する案件を協議した。

案件一 令和二年度の事業報告は、コロナ禍により、令和二年度の通常総会をはじめ、春の支部山行や太平山山開き市民登山の中止、それに全国支部懇談会や東北北海道地区集会、晩餐会までも中止となった。

本会通常総会や支部合同会議、支部連絡会議はオンラインへと移行。その中でも、秋の支部山行「七座山」、公益的事業として、山の環境整備県民協働事業、太平山歩道整備を行うことができた。会報発行は三回。

案件二 令和二年度決算報告を石川会計担当が説明。コロナ禍により事業が縮小された事による支出減と六十周年記念事業残金が一般会計に繰入れられ、繰越金が増となっている等を説明。

案件三 令和三年度の事業計画（案）は、春秋の支部山行や公益的事業として太平山山開き市民登山への協力、太平山歩道整備等を行う。全国支部懇談会は予定なし。東北・

北海道地区集会は中止、晩餐会は未定。本会通常総会、支部合同会議、支部連絡会議はオンラインの予定。

会報の発行は四回を予定。支部だよりは投稿が全くなく、発行を終了し、投稿があった場合は内容により会報で対応する。

本会百二十周年記念事業「山岳古道調査」は、①矢立峠②秋田街道③仙北街道④矢島街道⑤鳥海山古道⑥白木峠を推薦予定。

案件四 令和三年度予算（案）石川会計担当説明。各項目はほぼ前年度予算と同額の見積。令和二年度からの繰越金の内、六十五周年（令和五年）と山岳古道調査（令和七年まで）の支出については役員会で相談する。予備費については、今後の財政を念頭に丁寧に使用したい等の説明。

総会に提案する案件の協議は以上。会計監査は四月一日、午前十時から泉コミユニティセンター会議室で行う。

令和三年度の総会については、ワクチン接種が終わるまで集会は避けるべき等の意見もあり、色々と協議検討した結果、書面表決で行うことにした。

出席者

- 佐藤和志 鈴木裕子 鎌田倫夫
- 川口廣志 石川祐子 三浦眞六
- 安藤金栄 熊谷光子 後藤浩二
- 三浦昭男 柴田 勲

会計監査

四月一日 午前十時から泉コミユニティセンター会議室で開催。柴田、大橋両会計監事により、令和二年度の会計監査を実施。関係書類が適正に処理されており、正確であると認められました。



会計監査

出席者

- 会計監事 柴田勲 大橋忠雄
- 会計担当 石川祐子
- 支部長 鈴木裕子
- 副支部長 鎌田倫夫



オオサクラノウ
男鹿本山 撮影 鈴木裕子

令和三年度秋田支部通常総会 書面表決の結果報告

令和三年四月十五日、全ての案件について承認されました。

会員 四十九名

書面表決書提出 三十八名

委任者 十一名(書面表決書の提出がなく、全ての案件に賛成)

案件1 令和一年度事業報告 賛成 四十九 反対 0

案件2 令和一年度決算報告 賛成 四十九 反対 0

案件3 令和三年度事業計画(案) 賛成 四十九 反対 0

案件4 令和三年度予算(案) 賛成 四十九 反対 0

山岳古道調査事業 本会へ推薦

三月十六日、役員会終了後引き続き事務局会議を開催。本会に推薦する古道について確認。古道推薦書は、佐藤和志副支部長の依頼で④矢島街道と⑤鳥海山古道は、佐藤助雄会員が記載。

②秋田街道は南八幡平山岳会の佐々木昭雄氏からの資料を参考にして作成。①矢立峠③仙北街道⑥白木峠は、諸資料を参考にして三浦昭男委員が記載。

三月二十日、本会に青森、岩手、山形の各支部を跨ぐ古道については、本会へ調整を依頼。また、踏査に当たっては、本会プロジェクトチームに依頼する箇所もあるかもしれない旨を伝え、送付した。

鈴木裕子 佐藤和志 鎌田倫夫
後藤浩二 三浦昭男

支部連絡会 義

副支部長 鎌田倫夫

四月十日(土)午後2時から、令和三年度第一回支部連絡会議がオンラインで開催された。参加者は、本会の役員、他支部の支部長、事務局長等約六十名。

司会進行は永田理事。会長挨拶に続き、会務報告は、①令和三年度事業計画、②予算については、三月三十日に内閣府に提出。総会資料に添付する。

③記念事業委員会報告、④指導者講習会報告⑤山岳保険はネット申し込み可能。⑥アルプスなどの山小屋の情報、コロナ禍で南アルプスの山小屋はすべて閉鎖中、北アルプスも閉鎖の小屋が多いとの情報なので、利用する場合は確認すること等。⑦山岳基本法について。⑧その他として、デジタルメディア委員会から、本会で発行している会報「山」及び「山岳」は第一号からすべてデジタル化を終え、本会ホームページから閲覧できる等が報告された。

会長は、山の好きな人々が集まって、知的な話し合いの歴史のある日本山岳会のブランドを考えて運営していかなければならぬと話された。

越後支部からは高頭仁兵衛銅像の修復工事寄付金のお礼があった。

各支部からの質問で、群馬支部からズームでの総会の承認についての質問があったが、問題は無いとの回答であった。また、公益的事業の余剰金等の取扱いについての質問もあった。古道調査の質問については、この後に開かれる会議で対応する。

開催に合わせて、パソコンを色々操作し、カメラ装着がない私のパソコンは自分の顔が映らないが当然で、前のみの参加であったが、画面を見てみると他支部の方々が、パソコン操作に苦労しているのが映っていた。殆どの参加者が自宅だったので、とても和やかな会議であった。

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫

山岳古道調査会議

古道調査担当 三浦昭男

全国山岳古道会議の第一回の会議が四月十日、十七時三十分からオンラインで開催された。

出席者は、本部十二名、都府県四十六名、合計五十八名にて行われた。

開会に当たり「ヨリダー」から挨拶があり、その要旨は「古道の調査をスタートし、進めていきたい」、「現在、全国で重複を除き二百六の古道の推薦があった」、「第一弾として四月末迄、支部に一つを決め調査を依頼する」、「古道の選定は吉野会長、節田、永田、近藤の四名で行う」等の説明。

【会議要旨】

一、古道の選定 最終的には百二十、うち五十〜六十の古道を決める。

二、スケジューリング 調査依頼する古道をオンラインで打合せし、五〜六月にパイロット調査を行い進める。

三、実地調査 調査資料等を基に実地調査を行う。

四、支部間調整 二つの支部に跨る調査については、本部が調整していく。

五、その他 文献や図書など諸情報の収集に努めてほしい。

【質疑】

支部を跨ぐ古道、地形的条件の厳しい古道、文化、歴史、観光等の背景を持つ古道の実地調査が困難或いは不可能な箇所の取り扱い方についての質問が多く出ていた。コロナ禍での対応、取り組み方についての質問もあった。

※メモ 全国山岳古道調査

日本山岳会百二十年記念事業

調査期間は令和三〜令和七年度

全国で百二十の古道を調査予定

出席者 鈴木裕子 三浦昭男

六月一日

秋田駒ヶ岳山開き

秋田駒ヶ岳山開き行事は、六月一日駒ヶ岳八合目で、地元関係者のみで神事が行われました。

例年、岩手県栗石町と合同で行われている記念登山は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

秋田支部関係出席者

佐藤和志 今野昌雄 田口善信

高橋吉一 鈴木加代子

駒ヶ岳マイカー規制実施日

六月一日から十月二十日まで土、日、祝日

六月二十一日から八月十五日の平日

山岳古道調査「矢立峠」 三浦昭男

新型コロナウイルス感染が収まらな
い中で古道調査山行に逡巡していた
が、感染防止ルール遵守、現地集合・
解散することで企画した。

コースルートは道の駅やたて峠出発
↓矢立遊歩道↓古羽州街道に入り国
境・矢立杉↓(津軽)峠下番所跡で折
り返し↓明治新道の国境越え↓(秋田)
薬師堂まで、この道程は約四km、標
高差約一二〇mである。帰路の旧国道
約一kmを加えると全行程約五kmの山行
計画である。

六月五日(土)、前日の大雨も夜半に
止み、穏やかな薄曇りの天気恵まれ
た。集合場所の道の駅「やたて峠」に
十七名全員が集合し、支部長から「古
道調査山行です。歴史の道を楽しんで
下さい」との挨拶後、九時三十分出発。

道の駅駐車場(二五八m)が矢立遊
歩道入口でもあり、出発してすぐ、①
「天然すぎ広場」の樹齢二百年以上の
天然杉の薄暗い森の中に踏み入る。や
がて植生も広葉樹に変わり、ほぼ峠に
差し掛かる所②「伊能忠敬測量隊記念
碑」地点。秋田側からの古羽州街道の
最難関箇所を登り切った地点であり、
一息入れた所と思われる。ここから古
羽州街道に踏み入るが、この付近が矢
立峠の最高地点(三二六m)でもあり、
この辺りから道幅も少し広がる。

③「吉田松陰漢詩碑」地点、すぐ尾根
筋の丁字路になるが、津軽との国境(県
境)である。東に折れ進むが、津軽側
は急崖になっており津軽側の山並みも

も見えてくる。

④「一里塚跡」地点、江戸日本橋から
百七十六里と記載あり。⑤「国境・矢
立杉跡」地点、国境を定めたというゆ
かりの杉があったところ、今は三代目
の杉が高さ四m位に育っていた。
ここから津軽入り、下りの径、見返
り坂を下ると明治新道と合流し道も広
くなる。

⑥「峠下番所跡」地点で休憩。古羽州
街道、明治新道の起終点でもある(二
〇九m)。ここで折り返し、明治新道を
上る。馬車道とあつて道幅は広く勾配
は緩やかで林道を歩いている雰囲気
である。峠のすぐ手前傍らに⑦イザベ
ラ・バードの記念碑有り。明治新道の
峠は(二九八m)である。⑧「明治天
皇行幸碑跡」地点、峠に近い広場でも
あり、ここで昼食休憩をとる。⑨乗合
馬車開通記念標や⑩矢立橋跡を通り、
⑪薬師堂に着く。古羽州街道と明治新
道の起終点である(二二二m)。

ここから旧国道を歩き戻すが、途中
に古羽州街道入口、旧国鉄のトンネル、
蒸気機関車が三重連で峠越えした模様
を説明する石碑有り、歴史の道や廃線
となった鉄道の一端に比較的容易に触
れた時、垣間見ることが出来るのは矢
立峠ならでは、思った。
道の駅「やたて峠」に全員無事十三
時十分到着し、現地解散した。

【注記】○付き数字記号は大館市「矢
立峠散策マップ」の番号

貴重なご意見を会員外の方から届い
ていることもご報告します。

参加者 佐々木民秀 鈴木裕子

柳田勇悦 鎌田倫夫 佐藤博

川口廣志 後藤浩二 藤田正義

三浦昭男

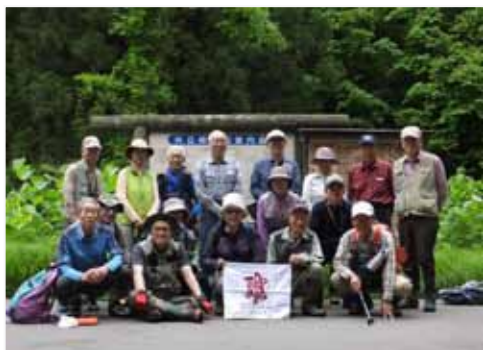
会員外 柳田ルイ子 永田誠一

戸松好造 小松芳美 熊谷律子

藤田靖 土田芳子 八嶋厚子



④一里塚跡の標柱には「江戸日本橋から百七十六里」「秋田県雄勝郡杉峠から六十三里」と記してある



⑩峠下番所跡で集合写真



②伊能忠敬測量隊の記念標柱



⑨明治天皇行幸碑跡

仁別林道等

通行止めのお知らせ

○太平山旭又登山口に通じる仁別林道は、五月十一日から七月下旬まで、改良工事の予定で通行止めとなり、旭又登山口から登山を予定している方は、確認の上、お出かけください。
問い合わせ先 秋田森林管理署
018-882-2311

○丸舞林道

(岩見三内丸舞く丸舞登山口)
五月下旬頃から八月中旬頃まで、木材搬出作業のため全面通行止め。但し、第二・四土曜日、日曜日は通行可(休業)。悪路です。

○旭又登山道(弟子選沢上部) 崩落箇所及び丸舞林道木橋(二本目) 流失に伴う復旧工事の調査・設計を実施する予定(県)。

本会からのメール要約 五月一日

三回目の緊急事態宣言が四都府県を対象に発令された。四月二十五日から五月十一日の間、本部のルームの利用を控えてください。(五月十一日、五月末日まで延期)(五月三十一日、六月二十日まで延期)
・事務局員は、一日二人態勢とし、交替で勤務。
・開室の時間は十三時から二十時。土曜日は閉室とする。
・極力少人数で利用する。
・クラスターが発生した場合を考え、入室者に会員番号、氏名、連絡先電話番号などを求める等。

岐阜県、長野県、富山県、山梨県では、入山を控えるように発信している。山小屋の休業を確認せず入山し、遭難にあう場合があり得るとの情報を発信している等。

会務報告

◎第三回役員会 三月十六日 一頁で報告

◎古道調査事業の打ち合わせ 三月十六日 二頁で報告

◎会計監査 四月一日 一頁で報告

◎事務局会議 四月一日午後一時から泉コミセン会議室

・総会資料作成

・総会資料と名簿の発送

○四月二十六日午前十時から泉コミセン会議室

・総会書面表決の結果発送

○五月十日鈴木宅

・山岳古道調査山行案内発送

○六月二十八日午後一時から泉コミセン会議室
・会報一九号発送

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫
後藤浩二 三浦昭男

秋田県山岳連盟総会

四月二十五日 午後一時からイヤタカ会館で開催。
秋田支部関係出席者
今野昌雄 高橋守 後藤浩二

林照雄氏逝く

佐々木民秀

長い間、秋田支部と親交のあった台湾岳人・林照雄氏は、長らく病氣療養中であつたが、昨年七月三日永眠されました。(享年八十一才)

謹んでご冥福を祈り、哀悼の誠を表します。

林氏は、中華民国(台湾)山岳協会の元理事として遭難対策等に尽力。長らく高山嚮導員として、登山活動に専念されてきた台湾きつての岳人であつた。「台湾百岳」を早々と達成され、「第三九番」を拝命。「日本百名山」にも精通され、八十数座に登頂されている。秋田支部の「台湾五岳」完登も、林氏の協力があつてこそであり、改めて感謝の意を表したい。

これまで数回来秋されているが、中でも奥様と御一緒に、千秋公園で桜満開時の花見を支部有志と共に楽しんだことが懐かしい。

二年前、お見舞いに林氏のお世話になつた旧知の岳友の清瀬、桑田の両氏と鈴木支部長とで台湾の林氏宅を訪問したのが最後の姿となつてしまった。また一人、お世話になつた岳人が消えてしまった。(公筆)



2008年5月 秋時に拙宅にて

編集後記

令和三年度秋田支部通常総会は書面表決によつて行われ、全会員から承認を得、安堵している。

コロナ禍はいつまで続くのだろうか。二月末頃には全国的に終末が近づいたように思っていたが、三月末頃から変異株が猛威を奮い、全国的に広がりはじめた。テレビ放映は連日外出禁止、首都圏への往来自粛等ばかり。ワクチン接種が早く行われ、日常生活が戻ることを願うばかりである。

会員の投稿により発行されていた「支部だより」は、諸々の意見もあつたが、令和二年度には一件の投稿もなく、終了となつてしまひ残念である。会員からの投稿があれば会報で対応したい。会員からの山情報はともありがたいが、投稿が無ければ情報も入らない。それと、会報の発行予定が年四回なので、タイムリーな情報は発信できないという問題もある。

お願いしたいのは、登頂目標を達成した山々の山行記録や山に対する想い、登るにあつた参考等寄稿して頂ければありがたい。山中で出会つた動植物等の写真の投稿も歓迎です。

また、刈り払いの終えた登山道、廃道になつた歩道、林道の通行止めや崩壊箇所、整備の終えた林道等の「連絡、ご投稿」いただければ、会報への掲載やお知らせ等で会員に通知したい。

最後に、支部行事が少なくなり、掲載記事が見つからず、会報の発行が遅れてしまったことをお詫びします。

(編集者 鈴木裕子)